

鴨川ふるさと会だより

— 第26号 —

鴨川ふるさと会発行

事務局：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所経営企画部まちづくり推進課内） TEL：04-7093-7828



▲スクリーン越しに会員と来賓とで意見交換

令和3年度 鴨川ふるさと会 市政懇談会 オンラインにて開催

新型コロナウイルス感染症の影響で集会形式のイベントを行うことが難しい状況の中、令和3年11月20日（土）、鴨川ふるさと会として初めてオンライン形式での市政懇談会を開催しました。

長谷川孝夫市長、平川潔副市長、鈴木希彦教育長、大久保孝雄経営企画部長に来賓としてご参加いただき、市長から市政概要についてご説明いただいた後、参加した会員と来賓とで意見を交わしました。

きよすみさんどう 清澄山道ループ橋開通

着工から20年、ついに完成！
清澄に架かる天空の橋



清澄・四方木地区へのアクセスや防災機能向上のため、千葉県が進めていた主要地方道市原天津小湊線の坂本工区（清澄山道ループ橋）が、令和3年9月13日（月）に開通しました。今回開通したバイパス区間は延長700m、うちループ橋部分は192mです。市原天津小湊線の当該区間は、もともとすれ違いが困難な狭隘道路で、ヘアピンカーブが2カ所あるほか、急斜面に沿っていることから降雨の影響などによる土砂崩れや落石が発生し、たびたび通行規制がかかる箇所でした。この問題を解消するため、千葉県では、平成3年度に坂本工区の整備に着手。平成19年まで



に橋の北側800mと南側1km区間の道路改良を完了しています。安房地域で初めてとなるループ橋は、平成13年度に着工。狭隘部分を避け、急峻な地形に2車線道路のバイパスとして整備されました。斜面を避けることで、土砂崩れなどの影響を受けにくくなっています。この開通により、清澄・四方木地区住民の利便性が向上するのはもちろん、周辺の観光地、「清澄寺」や「四方木不動滝」へのアクセスが向上し、加えて災害に強い安全・安心な道路となり、地域防災力の向上にもつながると期待されています。

「60年レスリング

人生の集大成

〜東京オリンピック ボランティア参加〜

鴨川ふるさと会

顧問 石川 忠男

夢のオリンピック参加を目指して週3回ジムに通いました。オリンピックは中止、延期、開催の世論の末に無観客開催と決定。幕張メッセのレスリング競技に孫娘と参加しました。そのレポートから一部を抜粋して報告します。

●7月27日

5時起床、ユニフォーム着用して幕張メッセへ。打合せ後、16面ある練習マットを入念に消毒、モップ掛け、選手村からバスで選手到着、練習開始。選手のIDカードチェック(笑顔でおもてなし対応)、ナンバードワンボランティア目指し積極的に行動(自己評価百点。笑)、今日の歩数1万7千歩(トレニングの効果大)、ランチはテーブルで黙食。午後のメンバーと交代、初日終了。流石に82歳、ベンチで30分休憩して帰宅。

1964年東京オリンピックは競技役員として参加。今

回はボランティア参加。今大会は「私は輝く」を基本コンセプトとした大会です。欧米並みのボランティア中心の運営はすばらしい。大学生、社会人、主婦、高齢者、ハンデのある人が交通費程度の千円支給で参加です。その意義を理解せずの中傷にはボランティアは悲しい気持ちになります。これからの日本ボランティアには新しい発展、前進を感じます。それは我が家に泊まり、初日参加の孫娘の輝いた目を見て確信しました。



●8月1日 大会初日

いつものように一番乗りで参加。

レスリングは、計量時間遅れやウェイトオーバーは失格。また、一対一のスポーツは相手以上の練習と自信が無ければ勝てない厳しい競技です。その経験が私の人生の基本になっています。この60年、吉田松陰の「夢なき者に成功なし」の言葉をモットーに歩んできた人生に満足しています。今回のボランティアは

その集大成です。今日はプラカード持ち、バスケットキャリアのボランティアでテレビに登場しました。



●8月3日 大会3日目

午前中は選手、コーチの入場IDカードチェック。「おはよう」と笑顔で挨拶。午後はバックヤードで選手とマスクミの接触チェック。よく守られていて、椅子に座って数時間。トイレに苦労。しかし、ドラマも見ました。負けたナイジェリア女子選手の号泣には貫い泣き。出口迷子の中国選手とは携帯翻訳機で会話。電子技術は世界を近くします。

●8月4日 ローターション休日

我が家でボランティア参加までの経過を振り返りました。7年前テレビでオリンピック招致決定を見て参加を

決意。すぐにNHK基礎英語を開始、スポーツジムで基礎体力を鍛錬、2018年12月応募。2019年2月面接で自己アピール、参加決定。研修会では、オリンピックの意義、歴史、大会概要、特に、ダイバーシティとインクルージョン(多様性、共生)をしっかりと学びました。2020年3月延期決定。82歳高齢者には気力、筋力、体力維持の厳しい1年でした。

2021年になって一部政党やマスコミの「人命とオリンピックどっちが大事？」との中止、延期発言には心が痛みました。オリンピックの政治化は困ります。開催を決定した関係者に感謝です。無観客でも選手は喜んでいきます。五輪は別格です。

●8月6日 大会参加最終日
マスク着用、シャツ注意、撮影禁止などの細かい注意を受けて、選手応援席で「マスク警察」担当。「プリーズ、ウェアマस्क」と英語で注意。会場に入ったおかげで須崎選手と乙黒選手の金メダルに感動。須崎さん圧倒的。地道なマット清掃、入場チェック担当が報われた最終日でした。

●私のレスリングジャーニー(旅)は終わります。関係者の配慮で孫娘と

▶ボランティアへ送られた感謝状



「夢」のオリンピックのマットに立つことが出来ました。感謝・感動です。なぜ、オリンピックボランティアへの参加を強く決意したか、60年のレスリング人生を振り返りました。

私は長狭高校時代陸上部で円盤投げ、棒高跳び、リレーの選手として2年からインターハイに参加しました。母校の先輩に誘われ、日大レスリング部に入部。練習の厳しさは半端ではなく、練習後の電車階段の昇降は厳しかったです。未経験での入部者の中で最後に残ったのは一人だけでした。陸上で鍛えた基礎体力、重量級に無いダッシュ力はレスリングでは大いにプラスでした。

大学3年の1959年から社会人の1961年まで全日本選手権を3連覇。大学4年の1960年はローマオリンピックの年で、絶対調で自信を持って各大会を勝ち進みましたが、最終選考会で惜敗、参

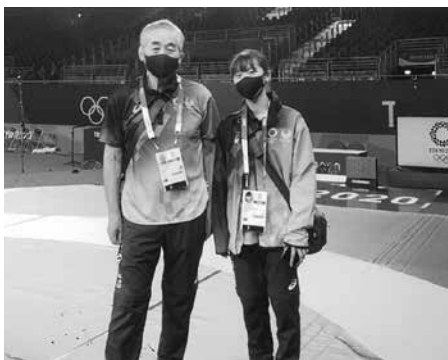
加できず悔し涙を流しました。

その年、東京日産に入社。東京オリンピックを目指し、昼間はセールズ活動、夜は青山レスリング会館、神宮外苑で一人コツコツトレーニング、土日は母校で練習。その結果、1961年に横浜で開催された世界選手権で7位、1962年アメリカ・オハイオの世界選手権では4位となりました。その大会でタックルでフオール勝ちしたトルコ選手は1964年東京オリンピックで金メダルを獲りました。当時の写真は今でも励みに飾っています。

2年後を目指して、ナショナルチームでのソ連、トルコ、イラン、欧州、アメリカへの遠征や自衛隊での長期合宿に参加。しかし会社から「レスリングか？会社か？」の選択を求められ、自ら会社を選択しました。(当時はそんな時代でした。今の選手は恵まれています。)

オリンピックを自分の意思で断念したことは辛いけれども正しい決断でした。以後は、絶対に後を振り返らず、常に前を向いて「夢・目標」を大きく持って挑戦することを決意して人生を進んできました。

また、海外遠征費に苦勞したとき、会社の仲間、ふるさと鴨川、高校同窓会がカンパしてくれました。いつか恩返しをと心に刻み、労働組合、会社経営、健保組合に、そして、鴨川ふるさと会で仲間のために、仲間にも助けられて、自分には満足する仕事ができたと自負しています。仲間にもふるさと鴨川に、レスリングに感謝です。



充実し、満足感のある60年のレスリング人生でしたが、アスリートとして、一度はオリンピックのマットに立ちたいと今回ボランティアを決心。ついに孫娘とオリンピックマットで記念写真が撮れました。

さらに、サプライズがありました。レスリングは金メダル5個(1964年も5個)の大活躍でしたが、日本レスリ

ング協会の福田会長(当時)はスポーツ紙の総括インタビューの中で「今回はボランティアの皆さんが本当によくやってくれた。特に日大の先輩で82歳になる石川忠男さんがマット掃除やプラカード持ちを担当してくれた。自分は選手として夢の舞台に立てなかつたからと、その夢の舞台で精一杯尽力してくれた。」とのコメントに感動しました。私の思いは通じました。さらに、ボランティアへの評価は嬉しい限りです。

私の60年のレスリング人生は終わります。ただ、人生は100年時代。まだまだ生きます。少し休んでまた「夢」を見つけます。

長寿社会のキーワードは「健康・謙虚・優しさ」と、「退かない、頼らない、気負わない」のようです。

鴨川市とふるさと会の発展を祈ります。感謝。



オルカ鴨川FC

2021シーズンの報告

●なでしこリーグ1部で9位 結成8年目を迎えたオルカ鴨川FC。女子サッカープロリーグ「WEリーグ」の開幕に伴い、オルカ鴨川FCは、なでしこリーグ1部で2021シーズンを戦うこととなり、小川貴史監督の下、なでしこリーグ1部優勝を目指してきました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、22試合中6試合に無観客等の制限がかかる中での戦いでした。

試合では、守備は他チームに引けを取らないものの、攻撃では決定力に欠け、あと一歩というところで勝利を掴めない試合が続きました。シーズン途中でFWの選手を2名補強しましたが、なかなか勝利に繋がれず、じりじりと順位も後退してしまいました。最終的に5勝10敗7分の12

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	伊賀FCノース三重	53	22	17	2	3	53	17	+36
2	スフィーダ世田谷FC	41	22	12	5	5	45	24	+21
3	大阪堺レディース	38	22	10	8	4	41	24	+17
4	日体大FIELDS横浜	36	22	11	3	8	24	27	-3
5	愛媛FCレディース	32	22	9	5	8	25	36	-11
6	ニッパツ横浜FCシーガルズ	31	22	8	7	7	31	25	+6
7	A.S.ハリマアルピオン	26	22	6	8	8	27	29	-2
8	NGUラブリッジ名古屋	26	22	7	5	10	27	33	-6
9	オルカ鴨川FC	22	22	5	7	10	17	26	-9
10	コノミヤ・スベランツァ大阪高級	22	22	5	7	10	26	36	-10
11	アンジュヴィオレ広島	20	22	5	5	12	22	43	-21
12	太和シルフィード	14	22	2	8	12	23	41	-18

2021 シーズン順位表

チーム中9位という結果でシーズンを終了しました。

●昨シーズンのリベンジを 2022シーズンは野田美新監督を迎え、なでしこリーグ1部で戦います。

野田監督は、中学3年生で当時史上最年少の日本女子代表に選出され、平成8年のアトラクタ五輪では、主将としてチームを牽引し、日本女子史上初の五輪でゴールを決めた、女子サッカー界のレジェンドです。

そんな監督を迎え、昨シーズンの悔しさをバネになでしこリーグ1部を戦っていきます。今年(寅虎)年、オルカ(シヤチ)は漢字で魚に虎と書いて鯨。つまり今年、「オルカの年」。今までの経験を糧になでしこリーグ1部優勝を目指して戦っていきますので、引き続き温かいご声援をお願いします。



スポーツの力で 鴨川の未来を拓く

一般社団法人ウエルネススポーツ鴨川



専務理事 岡野 大和

2019年3月、千葉県で5例目となる地域スポーツコミッション(以下「地域SC」)「一般社団法人ウエルネススポーツ鴨川」(以下「ウエルネスポ」)が誕生しました。

寄稿者について

(一社)ウエルネススポーツ鴨川

市からの委託を受け、サッカー女子オランダ代表、ブラインドサッカー女子日本代表の合宿の誘致や、「サイクルロゲイニング」「どろリンピック」などのイベントを企画運営。「ウエルネス」人々の心身の健康×地域の幸福」というコンセプトのもと、様々な活動を行っています。

令和3年11月20日開催のオンライン市政懇談会で司会進行等を依頼したご縁から、ウエルネススポーツ鴨川の活動についてご寄稿いただきました。



▲どろリンピックでサッカーを楽しむ子どもたち

■地域SCとは？

地域SCとは、スポーツ施設や自然環境、観光、食文化、産業などの地域資源を活かしながら、スポーツによるまちづくりを推進する団体で、一般的には、大会や合宿の誘致及び実施、施設の活用や指定管理などを通じて、地域活性化を図っています。スポーツ庁により、各地域での設立が推進されています。

■「ウエルネススポーツ」に込められた想い

団体名は「ウエルネス」と「スポーツ」をかけ合わせた造語ですが、ウエルネスの考えるウエルネスには二つの意味があります。

①人々の心身の健康

スポーツを通じて、まさにウエルネス(wellness)の単語が意味する、人々の健康を増進します。

②地域の幸福

人々が健康になることで、地域全体の健康寿命が伸び、生き活きと学び、はたらく市民が増えることで地域の生産性が向上します。

既存のマス型・メガ型の集客から、平日・閑散期も含め

た程良い数の人々を呼び込むスタイルに転換することで、地域への負荷を軽減しながら、経済の活性化を図りま

す。結果的に地域の幸福度を高めていきます。

■ウエルネスポの特長的な取組み

ウエルネスポでは、2020東京五輪における女子サッカーオランダ代表の事前キャンプの誘致及び実施をはじめとする、一般的な地域SCが取り組む大会や合宿の誘致、スポーツ施設の活用にも取り組んでいますが、独自の高い事業を推進しています。

①ロゲイニング

ロゲイニングとは、自転車や徒歩といった移動手段を使って、地図に示された地点を探索して、各地点に設定された得点を獲得して競う欧米発祥の、オリエンテーリングに近いフィールドゲームで、まち全体を使うことから近年ま



歩きの新しい企画として注目されてきています。

ウエルネスポではいち早くロゲイニングに注目し、独自アプリ「ロゲイニング・ハンター」を開発し、レンタサイクル事業とも組み合わせさせてイベントを実施してきました。

その結果、現在ではレクレーションプログラムとして企業や学校が鴨川を訪れ、利用するようになってきています。

参加者が分散するため、コロナ禍にも適応できます。

②ウエルkamoo

ロゲイニングが市外からの集客、スポーツツーリズムの事業であるのに対して、スポーツによるまちづくりを長期的な視野で成功させるためには、やはり市民がスポーツを身近に感じる、スポーツ文化を日常生活に定着させる事業が大切になります。

ウエルネスポでは「ウエルkamoo」と銘打ち、ジュニア・働き盛り・シニアの三世代にそれぞれターゲットインギ

し、遊び感覚で楽しみながら、身体を動かす喜びを感じていただき、さらに現在の身体の状態や運動能力、運動による改善を見える化して、より説得力があり、やる気が継続するさまざまな取組みを展開しています。

まだ2〜3年ほどの取組み

ですが、運動嫌いな子どもがこの取組みに定期的に参加することで、運動の楽しさ目覚め、校内マラソン大会で優勝するなど、着実な成果をあげはじめています。



■スポーツの力を信じて：

スポーツには「する」「見る」「支える」人をさまざまなかたちで健康にする力があります。また、スポーツは思想信条を超えて、地域を一つにできる要素でもあります。

コロナ禍によるライフスタイルの転換で、人々の健康志向が高まり、いまスポーツに大きな期待が寄せられています。

ウエルネスポでは、スポーツの力を信じて、鴨川の未来を拓くべく、これからも若手メンバーを柱として、ベンチャー精神で既成概念にとらわれない活動を展開していきます。ぜひ注目ください。